

さいたま市民医療センター

さいたま市が建設し、市内4医師会が設立した法人によって運営される「公設民営」の病院です。設立の主旨から地域医療支援病院としての役割を担っています。

□近隣に配慮した配置計画

敷地は、東側に住宅地、西側に水田地帯が広がる狭間に立地しており、水田の先には荒川堤が望まれ、天気恵まれれば富士山を遠望することができます。夕焼けが美しく、夕日に映えるカラーを外壁に選定しました。

設計途上で敷地の形状の変更があり、東側前面道路側にはアクセスのための車寄せと、主に救急・時間外のための駐車場を配置し、主たる駐車場は北西側に集約する配置としました。近隣への日影を考慮し南北に長く東西に短い形態を採用しました。

□療養環境と看護のしやすさを両立させた病棟計画

病棟は、手術部と同フロアにある外科系病棟以外は、1フロア2病棟構成で、小児病棟1、回復期リハ病棟2、その他が一般病棟で、全体で7病棟編成です。

すべての病床の環境を同質にした「個室的4床室」によるクラスター（病室群）で構成し、スタッフステーションを中心に、3つのクラスターを配置しました。親しみやすい家庭的なスケールの療養環境を実現するとともに、看護動線の短縮により看護師の移動負担の軽減を図ることを意図したものです。これらの構成が、この病院の特徴を成しているといえます。

□小児救急に配慮した外来

1階に、外来診療に関わる部門を配置して、患者の移動に伴う負担を和らげるようにしました。主軸を成すエントランスホールを中心に、主動線を明確にし、分かりやすい動線空間を形成しています。また、病院整備の主眼のひとつであった「小児救急の充実」を円滑なものとするため、小児外来と救急部門を一体的にして24時間稼働領域を集約しました。

□免震構造等により、災害時に機能を維持できるシステム

医療施設は、災害時において特に、その機能が維持できることが必要です。免震構造を採用するとともに、エントランスホールその他に緊急用医療ガス配管を設置しています。主要な設備についても数日間機能が維持できる性能を確保し、備蓄用の倉庫も設けました。

(古我大作)

所在地	埼玉県さいたま市西区
病床数	340床
構造・規模	鉄筋コンクリート造一部鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階地上6階
延床面積	29,317㎡
竣工	2008.12
写真撮影	高橋建築写真事務所
設計監理	(株)共同建築設計事務所